愛媛県の農家民宿先進地視察会

愛媛県今治市しまなみ海道周辺

令和5年12月14日(第1日)・15日(第2日)の日程で、農林漁業民宿の先進地**「愛媛県今治市しまなみ海道周辺」**に赴き、現地のしまなみグリーン・ツーリズム推進協議会と農林業、民宿を経営されている方々にお話を伺いました。

VOL.1 しまなみグリーン・ツーリズム推進協議会

愛媛県 農家民宿先進地視察会2

会長　西部 知恵氏　事務局　鍋倉 美恵子氏　顧問　美恵子氏

事務局　鍋倉 美恵子氏

しまなみグリーン・ツーリズム推進協議会の概要

私どもの協議会は、今治市の島しま部と上島町を対象エリアとし、2022(令和4)年12月時点で51団体(69体験)が会員となっております。農業民宿・農園にておよそ25軒が参加しています。

ご宿泊は、地域の農・漁業者などを地元で活動している団体と連携しています。農林業、民宿等行政担の受入れなど、活動の幅を広げています。

地域の活性化と未来に「農林漁業民宿協議会」と、西部会長

体験できるコンテンツにも、工夫と努力

教育旅行生などに向けて実施しているコンテンツとして、自分たちで作った拉致被害者の絵を中心に作成した展示を通じて、「体験型プラン」を設けています。最近は学校からの「SDGs関連」のご要望がとくにさを受け、みかんの皮を活用した草木染体験などを提供・提案しており、人気を頂いています。

そのほかにも、ハたで作り体験の他には、いろこには様々な品種があることを説明、食べ比べをしてもらいます。それぞれの美味しさを感じてもらうことによって「人間も同じ」それぞれの個性があり、そのコツひとつが大切であるといった講演を受けています。このような講演等者にも、自治などから教育コンサルの工夫に協力をいただいています。

現在、教育旅行における民宿・民泊体験は年間約1,000人ほどですが、新しい時期に入り本格的で整えられる少人数体験にしていくことです。

今後、協議会が10年、20年先へと継続していくために、ワークショップを開催し、次の世代が主体となって行動できるよう、活動計画の書き上げをしていくことです。

会長　西部 知恵氏

2000年の協議会設立当初は

しまなみ海道の開通を迎えるにに、私たちしまなみグリーン・ツーリズム推進協議会は、2000(平成12)年に来の生活改善普及員からの声掛けにより設立いたしました。当時はまだグリーンツーリズムという考え方は薄い部落がかなり知らないことばかりでしたが、県の普及員さんから「今まで続けてきた農業によっての生活(野菜の収穫や果樹栽培などと)、島に来てくれたりして、個人ではなく地域のみんなで体験として提供してください と指導を受け、まずは「一次産業者のお宿さんのお小遣いをつくろう」というテ ーマ で進めてきました。

農林漁業民宿につきましては、2006(平成18)年にたった3軒からのスタートでした。開業に際して以「いま家にある空間提供活用して、できる範囲で中っとみんなとの交流の時を、皆の農業と農業、自然に農家の方を一軒一軒回りながら、開業を促しました。中約、開業を希望する人たちが集まり、将来の夢を語り合いながら、手を携えて一緒に進めました。

当時は「自分たちに民宿ができるのか」という声も多く、一つ目の出会いなしに大多数でしたが、異気を持って臨んだ先駆者のおかげで徐々に広がりを見せていきました。

活動状況、そして今後の検討

教育旅行の手配については、協議会の事務局を通じてお願いしています。事務局は直近については2022(令和4)年までは、県の職員の方が対応してくれていましたが、2年前からは、今治市の職員が対応しています。2023年度からは今治市の「地域おこし協力隊」の派遣を受け対応しています。ただ地域おこし協力隊、対応期間が3年と決まっていますので、今後の事務局運営については、どのような活動の仕組みにするのか検討しています。

また、今治市の職員の方は、事前研修をおこない、安全管理の徹底を図っています。現行教了後も民宿者を問題し問題点をスクリーニングしています。「時に「体験型で受別しているよ」が前にいたいたいたが、少数・都会のメニュー を持ち寄り、どういったものが好評だったのかなども、活動に意見交換しています。

その他、協議会活動の戸外を広くなりため、大阪に出向いたり、県の力の協力を得て自第へ開設に向うことも有ります。

地域振興のお役に立っている実感があります

協議会の活動については、地域の魅力発信や活気づけのお役に立てている実感があります。教育旅行などで大型バスが来ては、農作物を必要を買て、農民も集の個人の広がりが広がっているようです。これも良い効果の現れだと思っています。

もちろん、協議会活動に対して、反対意見がゼロとはなることもあります が、それも関係の関心と捉えて「一緒にやろう!」と、機動的に声を掛けて います。皆さんは、私たちと共通が多体で活動することを夢みて、日々の努力を重ねています。

バトンを託す若者への願い

現状、大きな課題のつが、協議会の活動継承です。協議会自体、高齢化が進んでおり、私自身もこの先10年、20年と会長を続けていくことは困難です。すでから、中心若者には地域のなかで仕事を育て、活動を推進していて欲しいです。私たちのバトンを受け取ってください。「一歩を踏み出せ!」と、ご自分の活動を、ご自分の力で、ぜひ一歩踏み出せないかどうかを考えながら、協議会の運営を続けていただけることを願っています。

VOL.2 農家民宿「しまなみの小さな家」

愛媛県 農家民宿先進地視察会2

運営者　井上 貞子氏

素晴らしい経験が、民宿開業につながる

夫が仕事を定年した後、いろう農業をはじめた際に協議会のカから「子どもたちの体験を受け入れてくれないか」と、依頼されたことがきっかけです。最初は家族の子どもたちだったのですが、近隣と大阪にいた学校体験の、みかん狩り体験をおこなったところ、子どもたちは目を輝かせながら体験の一つひとつ一つをとても楽んで、ミニマエを飛ばしたりしても大はしゃぎしていたのがとても印象的でありました。この頃から農作業がもしかしたら、教を講師して貰えてまずはずと「美味しいよ」と、声に出てくれました。

このように素晴らしい体験をできたことで、初めの不安がクリのように解きた、自分自身も楽しく、やや厚愛を感じました。そしてこの経験がきっかけで、子どもたちを受け入れるようになりました。

その後、県のカからも「本格的に農家民宿を開業してみないか」との提案があり、開業準備等についてもやさやポートいただいたおかげで、開業することができました。

井上さん夫婦と、参加者の方達与里美民宿の前で

松の芽より「愛媛のたいてい」「しまなみのかさな家」

人との交流を大切に、夫婦ムリをせず

民宿の開業には、自宅を活用して運営しています。うちは夫婦ふたりだけで生活しており、ていないの部屋をお客さまに活用することで、効率的な運営ができていると思います。

お客さまをお迎えする本旨にして、私は人との交流を大切にしていること、また、夫婦が必要以上にムリをしないことを意識して、1日1組限定とされています。食事については、夕食は近くの各飲食店を紹介しています。朝食は家で食べたいとのお客様が多くの方です。

当初お客さまは1月に1組くらい訪れていたにすぎない状態でしたが、「美味な海鮮」が全国的なブームになったことでやはりテニュースプルネと、宿泊効果は上がったのでしょうか、徐々な知恵から お客さまが来てくださるようになりました。

農家民宿をはじめて、様々な経験が宝物になりました

コロナ禍では、教育旅行で訪れるはずの学生たちが、度々到行中止で来られなくなり、残念な思いをしました。でも、それは裏は個を見に入って、現地を実で伝える家庭さんとお話ができて楽しかった、結果ありがたいなりの関係になったり、嬉しい出来事もありました。また、結果者からの反応あるには「一度、うちにも遊びにおいで!」と言っていただき、私も遊びに伺いました。知恵から教育だった方、とくに、こんなふうあいができたことは貴重ないとい思っています。

外国の方がいらっしゃった時には、言葉のことも気にされて、その方は完全家族さまでスヴェーガンシ家族でしたが、動物性食品は一切口にされないと聞き、食材探しと調理が大変でした。私自身ヴィーガンとはいう存在すら知らなかったので、料理法を工夫しようと、ぼくの料理法に却ってはなりなりに対応しました。でも自己的方的でなかったかと、食材の調理法を工夫したりすることで、意外と美味しいものができあがり、料理レパートリーの幅も広がりましたし、興味しがったかなと感じています。

貴重なお話で、地元のかたの交流も増え、地域発材を通じて地元の皆さんとジルメ?ゆ良くなりたことがより深くなりの交流になっていると思います。食材に対するお客さまの反応などを伝えると、生産者のかは とても喜んでくれます。そんなかれは「地域に輪ができていると感じられて、私はとても嬉しくなります。

参加者と、ヴィーガンの方達と、与里美民宿の前で

ホッとする空間やりも、参加者の人とりと美味も最高に

VOL.3 農家民宿「吉乃屋」

愛媛県 農家民宿先進地視察会2

運営者　西部 久美子氏

祖父母の家を活用して、民宿をはじめました

2015年頃、祖父母が住んでいた家が空き家になったことがきっかけで活用法を考えた時、元々私自身料理が好きだったこともあり農家民宿を思いついて開業しました。

最初は家族からの依頼で、お客の学生を受け入れていましたが、今現在は、私自身「お客さんを受け入れる」ことが、とても楽しいと思っています。お客さんのペースで民宿運営を続けています。

運営、民宿予約は「しまなみグリーン・ツーリズム推進協議会」から依頼されたお客様のみ対応しているのですが、突然ご予約の電話が掛かってくることがあり、どこからかもたどりつき、ビックリすることもあります(笑)。

苦労をしない工夫を、取り入れています

自分のペースで「身体が少うくなる」お客さまをお招きしないことを、ボランピーシにしています。今のこと民宿は以前はいらっしゃ(笑)、その方のホタル外国客でUNGお招き、言語していたりとはかが上の国林漁家民宿の魅力でもし、そのおかげでも私民宿の運営が続けられていると思います。

その中、お客さまの「要望をしっかりと聞いて」対応しているように考えています。

身銭り手間りで、心が通じあった台湾の学生さん

台湾の学生さんたちを お迎えした際に、お互いに言葉が理解できませんでしたが、身銭り手間りの対応で、意思が通じ合ったことは、印象的と可笑しがいまいまもとても印象に残っています。

先日、そのさお話になった学生さんの入から「今度、切力形に遊びに来ます」との連絡を頂戴し、学生さんも「そのお言葉に勇気を頂いているんだな」と感じました。再び台湾にかかるのが楽しみです。

美味しい食事を提供するために、こだわり

お客さまへの食事の対応、それが自分の民宿の業務の中で最もこだわっていることです。もっぱら大変だなと感じています。現在は、自分が育てた野菜を調理して提供しているのですが、美味しく伝えるがっていたりこちらの上手ではないのかと、自分自身心配しています。ただ、結果的に、お客さまが「料理がなるのそまなべ〜の所」と言ってくださいます。「美味しい」と言葉を出したことと採用となり、実際に生で提供したことをピーマンが、とても好かったよう、子どもたちが食べてくれたことがあります(笑)。

あと、うちの民宿では朝食には自家製パンを提供しています。パンの作りはのたきっかけは、子どもがかなり小さい頃一度に沉山後へ&の中、夫にパンは自食が足りないから、パンを焼いてほしい、作りはじめれば、少しずつ美味しくしているのでは思と工夫を注ぎ込み、自然と試行錯誤を経て「自分で美味しいパンが作りたい」と思ってきました。民宿の話から始まり、最初のころ、パンを食べて「美味しい」と言葉を出したことと採用となり、実際に生で提供したことをピーマンが、とても好かったよう、子どもたちが食べてくれたことがあります(笑)。

西部さんのアドバイスが、のお自分の理事者の話まとよる

自慢のパンを焼いて、参加者の人とりと美味も最高に

ホッとする空間やりも、参加者の人とりと美味も最高に

ホッとする空間やりも、参加者の人とりと工夫がある